

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:宮川 仁一 所属:横浜市立綱島東小学校 記録日:2017年2月10日

キーワード: 文章の読み支援・気持ちの表現・コミュニケーション・学習意欲

## 【対象児の情報】

1 学年 小学6年生 男子児童 12歳

2 障害名 知的障害を伴う自閉症

3 障害と困難の内容

(読むことについて)

- ・低学年の教科書でも促音、助詞の読み飛ばしがあり、正しく読むことは難しい。
- ・文を読む際に今どこを読んでいるか、ことばのまとまりに着目する等の困難さを要し、内容を理解することが分からなかつたりする。
- ・意味が分からないことばやイメージがわからないことばが出てくると、文章の内容理解ができなくなる。意味が分からないことばを辞典から探し出すことには苦手意識がある。

(話すことについて)

- ・思っていることを適切なことばにおきにくく、さらに聞くと気持ちが不安定になることがある。
- ・話をしている途中でも場面の違う思ったことを話し、話が変わることがある。

## 【活動目的】

1 当初のねらい

- (1)本を読む学習に画像や動画を活用することで、イメージをもって理解できるようになる。
- (2)伝える方法を増やすことで、相手に思いが伝わり気持ちが共有されることで表現の意欲を育む。

2 実施期間 2016年5月～2017年1月

3 実施者及び対象児の関係 宮川 仁一

4 実施者と対象生徒の関係 特別支援学級担任

## 【活動内容と対象児の変化】

### 1 対象児の事前の状況

#### ○読むことについて

- ・バムとケロシリーズの本は好き。絵をたどることで、内容を理解できる本は好き。字が多めに感じる本は読まない。
- ・タブレット PC は自宅でゲームに利用していることから操作に抵抗はなく、画面で映像を観ることに興味がある。
- ・読み聞かせでは絵が大きくはっきりしている本だと興味をもって聴く。
- ・内容に興味はありながらも、自分では文字を読めないものは挿絵や読める平仮名を拾い、分かろうとする。

#### ○話すことについて

- ・自分の行動、考えをゲームのキャラクター、シーンに置き換えて表現することがある。
- ・友達の発話中、気になったことは相手の話を遮っても発話をしようとしてしまう。
- ・「○○知ってる？」と今までの状況に関連しない話題を急に話し掛け、関わりを求める。

### 2 活動の具体的内容

#### (1) 読みに対する支援

##### ○本そのものへ興味をもたせる支援

- ・活字から意味を理解することに困難をもち、読書の楽しみを見いだせない。  
→絵本の読みきかせ動画を読み手の声と画像の絵を見ながら活用した。



『ラヂオえほん』



『You Tube』

##### ○文章中の意味理解に対する支援

- ・文章中に意味が分からない言葉やイメージがわからない物の名前が出てくると、文章内容理解ができなくなる。  
→意味が分からない言葉を『YahooJAPAN』の画像検索を利用し、理解をした。



『Yahoo JAPAN』

#### (2) 思いを伝えたり共有したりすることへの支援

##### ○相手に思いを伝え、気持ちが共有されることで表現の意欲をもたせる支援

- ・伝えたいことはあっても、どのように表現すればよいのか分からなくなる。  
→読んだ本の中から、気に入ったページを画像ファイルにし、感じたことを『学びあいノート』にソフトキーボードを画面に立ち上げ、マウスを利用し、文字を入力し表現した。



『ジャストスマイル  
学びあいノート』

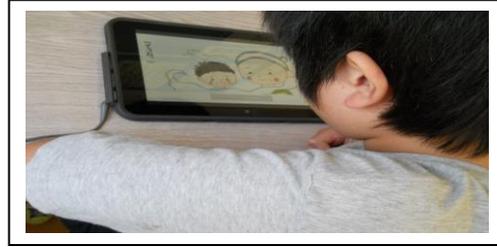
### 3 対象児の事後の変化

#### (1) 読みに対する変化

##### ○本そのものへ興味をもたせる支援

- ・文字のアニメーションと音声補助を活用することで、イメージを補い話の世界を楽しむことができるようになった。

特にバムとケロなど愛嬌のあるキャラクター、登場人物の動きに共感できる本に興味をもった。時間があると当該のウェブで新作を確かめるなど、本を読む楽しさを肯定できるようになった。



#### ○文章中の意味理解に対する変化

- ・文章中出现くる言葉、例えば「こっとうや」などイメージしづらい時に画像検索から探し、自ら調べるようになった。理解できたときはほっとした様子で「うん。うん。」とつぶやくこともあった。調べたものが文章で回答、解説されていると気持ちが萎えてしまうが、画像で理解することで、「知らないものを知ってみよう。」という次につながる思いが形成された。
- ・一度調べたもので記憶にあるものは「あっ、あれだ。」という回想もでき、より本の内容を味わうことに集中できる場面もあった。



#### (2) 思いを伝えたり共有したりすることへの変化

- 相手に思いを伝え、気持ちが共有されることで表現の意欲をもたせる支援  
気づいたことをまず伝え、伝えたことが相手に認識をされるという感覚がもて、応答を受けまた伝えたいという見通しを体感していく過程を大切にした。
- ・日常本児が経験している行動と、登場人物の行動とが重なり共感できた場合、自分のことを伝えるように、その時の気持ちをお気に入りのページとし取り挙げるが多かった。
- ・「がんばっているね。」「たいへんだね。」など、「たのしい。」「おもしろい」だけではないつぶやきや登場人物に共感する気持ちも表すようになり、日常の学校生活で教師や友だちが発する相手を思いやる場面を想起し、該当するような個所で表現、応用されるようになってきた。



#### 【報告者の気づきとエビデンス】

##### 1 主観的気づき

##### (1) 読む楽しさ

- ① 本の楽しさを知り自分なりの学習方法で味わえるようになった。
- ② 文章を読む際は、既読の内容であれば言葉の塊を意識しながら読める姿が増えてきた。
- ③ 挿絵や画像の情報があることで、理解への見通しが生まれ、自発的に手に取る姿が出てきた。

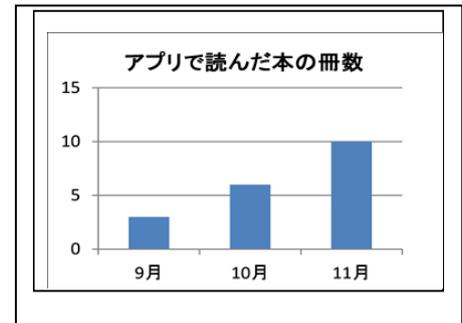
## (2)伝える楽しさ

- ④ 本の内容を理解することが増え、思ったことを文字やサインマークで端的に伝えることで、相手に共感され「伝わる」という実感を得た。そのことでまた「伝えたい」という意識が育まれた。

## 2 エビデンス

### (1)読む楽しさ

- ① 分からない言葉があると「画像検索」を活用して意味を知ろうとすることがふえた。
- ② 表示される文や、文の読み上げを活用することで、内容を理解しようとする意欲が高まり、1冊に集中する時間も増えた。
- ③ 「そういうことか！」「ほくもやりたいな！」などつぶやき、アプリで読む本の楽しさを体感し、「次も読みたい！」という意欲の意識が育った。
- ④ 『ハムとケロ』シリーズの本は初見でも挿絵が多く、キャラクターへの愛着や物語の展開が分かりやすいこともあり、「ハムはケロのこと、いろいろあるけど好きだよ。」というふうに、内容を推し量りながら読む姿が見られた。
- ⑤ シリーズに繰り返し出てくるキャラクターの呼称「ハム・ケロ」という言葉は気に入っていることもあり、スムーズに塊で捉えて読むことができるようになった。
- ⑥ 気に入って何度も読んだ本であっても、助詞や促音については、音の支援なしには正確に読むことは難しいことから、音の支援があることで、文章の内容の理解が支えられ、楽しく読むことができていると思われた。



## (2)伝える楽しさ

- ① 読んだ本の気に入った個所を画像に残し、画像を見ながら振り返ることで、その理由を伝える数もふえた。
- ② 本の楽しさを味わえるようになり、友達にも自分と同じように本の楽しさを伝えたいという意欲が高まり、練習を重ね読み聞かせを行った。



## 3 その他エピソード

自分で興味をもった本をほかの友だちにも教えたいという気持ちが育ち、図書室で見かける本の紹介ポスターヒントに独自のポスターを作ることを選んだ。

「絵を描くのは好きだけど、ほんものっぽいのがいい。」ということで表紙をコピーし、目立つように画用紙の周りにも色を入れ、題名、作者名も見よう見まねで漢字とルビを入れオリジナルのポスターを作成した。

読み聞かせもしてみたいということで、友だちにも披露できるよう今後は練習を積み重ねていきたい。



## 4 今後の見通し

- 支援のあるツールを活用し、内容を味わえる過程を経験したことで本を読み聴く意欲を得た。今後も児童が理解を深める映像等の作品や資料を選別し他の学習でも活用してもらえよう、中学校にも情報を共有していく。
- 文章を読むことに関しては、言葉の塊への意識は少しずつついてきているが、初見の文章になると言葉を追うので精一

杯になってしまい、まだ十分ではない。文字をたどることに精いっぱいになってしまうことから、言葉の塊を捉えて内容を理解させていく学習がもっと必要であった。短い文章で言葉の塊を捉えさせていく学習が不十分であったことから、関心のある話題から小学校でも学習を行うことと、今後は上記の学習について、①音を補うだけでなく、デジター図書といった視覚的なガイドのある教材について導入する。②関心の出た言葉から語彙を広げていく。といった、活動につなげていく支援が重要になってくると感じており、中学校へ引き継いでいきたい。

○思ったことを文字以外の方法で伝えることで、相手に共感され「伝わる」という実感を得た。そのことでまた「伝えたい」という意識が育まれた。文字に限らず様々な表現でも「伝えたい」という気持ちを大切にしていくことでコミュニケーションの楽しさを味わってほしい。